

令和7年度 多摩ニュータウン環境組合地元協議会視察研修会報告について

1 日時

令和8年3月13日（金） 8:45～15:00

2 視察場所

- ・小平・村山・大和衛生組合
- ・国文学研究資料館

3 参加者

地元協議会選出 2人

事務局 3人 計5人

4 視察内容

（1）小平・村山・大和衛生組合

①不燃・粗大ごみ処理施設

- ・令和2年4月より稼働開始
- ・破砕機が2つあり、まず低速破砕機で大きく砕き、高速破砕機で東京たま広域資源循環組合の定める基準より小さく砕くようになっている。
- ・破砕後は磁選機・アルミ磁選機で選別し、残りは、トラックで焼却施設へ搬入する
- ・リチウムイオン電池での火災は発生していないが、発熱・発煙は発生している。
- ・発熱・発煙した場合は、散水設備が稼働するが、コンベヤは動いたままで、出口となるホッパーや下したトラックで消火の確認をしている。
- ・プラットホームなどはサーモカメラを増設し、監視している。

②新ごみ焼却施設

- ・令和7年10月より稼働開始
- ・全面の完成は令和9年度予定でまだ工事中の場所がある。
- ・能力は118t×2炉
- ・完成後は自由見学とするため、設備ごとに説明用のデジタルサイネージを設置している
- ・川崎重工(株)にデータを送信し、AIによる自動運転を実施している。
- ・電力地産地消事業も行っている。（多摩ニュータウン環境組合を参考に）
- ・見学通路にごみで作った芸術作品が飾ってある。（業者からの提案）

③その他

- ・余熱利用で足湯を作っており、運営はボランティアで行っている。
- ・煙突登りは実施していない。（予定もなし）

④質疑

Q：地元からの要望で反映した個所などはあるか。

A：計画段階から地元とコミュニケーションを取って建設していった。市民からの要望で大きかったのは、臭気を外に出さないようにしてほしいというものであった。また、美観を損ねないように配慮してほしいというものもあり、煙突を 60mとし、航空障害灯をなくすことや外観に配慮をおこなった。

Q：当初想定の仕事費からの増額や工期延長などはあったか。

A：工期延長はなかったが、2度インフレスライドにより変更を行った。人件費のほかに資材費の高騰が大きかった。

(2) 国文学研究資料館

- ・ 自由見学